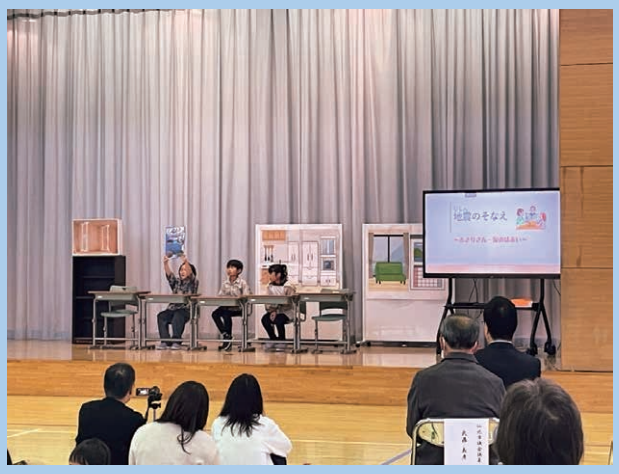
令和６年度　文部科学省委託
学校安全総合支援事業

「地域連携安全・安心推進事業」

― 実践事例集 ―



拠点校：仙北市立桧木内小学校
仙北市立桧木内中学校

秋 田 県 教 育 委 員 会

は　じ　め　に

令和６年度は、阪神・淡路大震災から30年という災害安全において大きな節目の年であります。大きな被害を受けた兵庫県では震災を風化させてはならないという決意のもと、世代や地域を越えて経験と教訓を「繋ぐ」取組を進めており、中でも、震災を経験していない若い人たちが災害について主体的に学び、考え、自分の言葉で発信し、次世代へ繋いでいこうとする活動に取り組んでいます。本事業も過去の災害から得た教訓を、学校、家庭、地域、関係機関が連携・協働しながら、世代を越えて繋いでいくことの必要性を再認識しております。

県内においては、相次ぐ自然災害により毎年のように「緊急安全確保」が発令され、７月の記録的な大雨では、子吉川や石沢川などが氾濫し甚大な被害を受けました。また、自然災害だけでなく、登下校中の事件・事故、熱中症や鳥獣対策など様々な課題への対応も求められており、子どもたちの安全確保が学校だけでは完結できないことを実感することが多くなってきています。

県教育委員会としましては、このような状況に対応するため、学校安全の３領域に関する教育を学校・家庭・地域が連携しながら推進していく「地域連携安全・安心推進事業」を、平成29年度に立ち上げ取り組んできております。

今年度は、モデル地域を仙北市、拠点校を仙北市立桧木内小学校・桧木内中学校とし、これまでの地域と一体となった取組に加え、関係機関等と連携を図りながら、地域の立地状況に対応した効果的な取組を実践していただきました。

今後は、その成果を様々な機会を通じて全県に波及させるとともに、子どもたちがいかなる状況下でも自らの命を守り抜き、安全で安心な社会を実現させるための知恵と行動力を身に付けることができるよう、学校安全に関する取組の更なる強化・充実に取り組んでまいります。

最後になりましたが、子どもたちと共に活動していただいた両校の中核教員をはじめ教職員の皆様、活動をご支援くださいましたＰＴＡや地域の関係機関の皆様、仙北市教育委員会の皆様に対し心から感謝申し上げます。

令和７年２月

秋田県教育庁保健体育課
課長 **野中　仁史**

目　次

はじめに

Ⅰ　事業の説明 …… 1

Ⅱ　推進委員会の開催 …… 3

Ⅲ　実践委員会の開催 …… 5

Ⅳ　学校安全の取組

①外部専門家の活用 …… 6

②避難訓練 …… 10

③水辺の安全活動 …… 15

④情報発信 …… 20

⑤交通安全・生活安全 …… 23

Ⅴ　中核教員の資質向上 …… 26

Ⅵ　実践報告

桧木内小学校・桧木内中学校 …… 32

Ⅰ　事業の説明

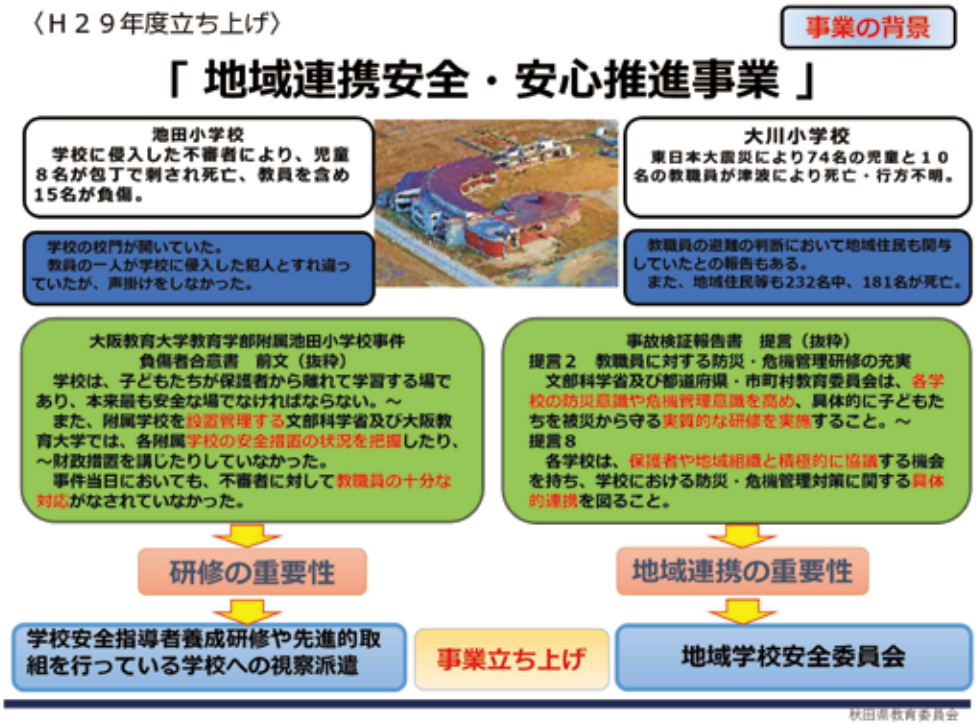
1　事業が行われることとなった背景

⑴　東日本大震災の教訓

学校における防災教育を推進するために、基礎的な知識の習得や避難訓練を確実に行うことが重要であるが、さらに、地域住民や保護者、関係機関等からの協力の下、より実践的な内容にするための工夫や地域と連携した継続的な取組、教職員の実践的な研修の重要性が確認された。

⑵　大阪教育大学附属池田小学校の教訓

学校の安全措置の状況確認や、組織として対応する仕組みができていなかったことなどが課題として挙げられた。この事件の検証のあと、池田小学校事件負傷者合意書が締結され、学校の設備や管理面のほか、児童への安全教育や教職員の実践的な研修の重要性が確認された。



2　事業の目的

事業の背景を踏まえ、地域連携安全・安心推進地域（以下、「モデル地域」という。）における学校運営協議会等を活用し、学校と地域が連携・協働する学校安全体制の構築を図る。

また、校種及び地域住民並びに専門的機関等と連携・協働した学校安全の効果的な実施に向けた計画の策定、それに基づく具体的な取組に対して支援や助言を行い、実践的で効果的な学校安全を推進する。

3　事業の内容

⑴　推進委員会の開催

事業の円滑な実施を図るため、モデル地域が主体となって行う事業計画の作成及び事業の実施に対し、大学関係者等の学識経験者、県教育委員会、関係市町村教育委員会、県総務部総合防災課及び学識経験者により構成される推進委員会を開催し、指導や助言を行い事業の推進を支援する。

⑵　実践委員会の設置及び開催

当該教育委員会と拠点校が連携して、学校運営協議会の機能を活用した実践委員会を設置し、拠点校における事業の実施計画を作成するとともに、計画の実施に向けた組織等の整備や支援を行う。

⑶　モデル地域の学校における「学校安全学習会・発表会」の実施

学校や地域の実情を踏まえ、専門家による指導など、先進的な情報を活用しながら、地域・家庭・関係機関と連携・協働して災害リスクに応じた安全教育や避難訓練を実施する。

⑷　拠点校の教職員を対象とした、中核教員を育成するための研修の実施

中核教員が全国的な教職員研修会や学校安全の先進地視察へ参加し、資質や能力を高めるとともに、得られた成果については、モデル地域内の学校において共有する。

⑸　学校安全の実践内容を普及啓発

事業の実施内容、成果、課題等について実践事例集を作成し、県内の市町村教育委員会や全小・中学校等に配布して普及啓発を図る。

令和６年度地域連携安全・安心推進委員会　委員名簿

	所　属　及　び　役　職	氏　　名
委員長	秋田大学地域防災減災総合研究センター　教授	水　田　敏　彦
委　員	防災士	斉　藤　亜　希
委　員	仙北市教育委員会学校教育課　指導主事	武　藤　洋　史
委　員	秋田県総務部総合防災課　副主幹	三　浦　涼　太
委　員	秋田県教育庁義務教育課　指導主事	酒　井　文　典
委　員	秋田県教育庁生涯学習課　社会教育主事	佐　藤　賢　輝
委　員	秋田県教育庁南教育事務所　指導主事	後　松　静　香
委　員	秋田県教育庁保健体育課　課長	野　中　仁　史

Ⅱ　推進委員会の開催

第１回推進委員会

- **日　時　令和６年５月30日（木）午前10時から11時30分まで**
- **場　所　秋田県庁第二庁舎８階　81会議室**

県教育委員会はモデル地域において、学校・地域・関係機関等と連携・協働しながら、事業が円滑に実施できるよう、モデル地域を所管する仙北市教育委員会や県総務部総合防災課、学識経験者等を委員とする推進委員会を開催した。

今年度は仙北市の桧木内地区をモデル地域として、桧木内小学校と桧木内中学校を拠点校に本事業を実施することを確認した。仙北市からは、地域の災害リスクを踏まえた拠点校の実践内容や地域連携の実態、本事業の推進方針について説明があった。

また、安全教育プログラムと地域連携について、どのような関係機関等と連携していくかを説明し、各委員から関連する事業の紹介や取組について御意見をいただいた。

モデル地域の具体的な取組
①防災アドバイザーの活用 防災士の資格をもつ防災アドバイザーと連携し、地域の災害リスクに即した安全教育の推進を図る。 ②学校安全外部指導者派遣事業の活用 関係機関の専門家と連携し、児童生徒の主体性と訓練の実効性を高めるような安全教室を実施する。 ③仙北市各部局との連携 総合防災課や生涯学習課と連携し、避難訓練等の実施や体験的な防災教室を開催し防災意識の向上を図る。 ④ＩＣＴ機器の活用 １人１台端末を使い、ハザードマップや災害気象情報を活用した、安全教育を推進する。

第１回推進委員会の様子

第２回推進委員会

- **日　時　令和７年２月６日（木）午前10時から11時30分まで**
- **場　所　秋田地方総合庁舎６階　606会議室**

今年度の取組について事務局から事業報告するとともに、仙北市からは実践委員会の意見を踏まえた、モデル地域や拠点校の成果と課題について報告があった。また、各委員から事業への御意見をいただき、次年度の取組に向けた参考とした。

【成　果】

・児童生徒、教職員、地域住民による課題意識の共有
・児童生徒の「地域を守る」という防災意識の向上
・関係機関との連携の強化や新たな繋がりの構築
・中核教員の資質向上

【課　題】

・継続的に安全教育に取り組む環境づくり
・系統的・体系的な学校安全計画の策定
・危機管理マニュアルを活用した学校安全の取組
・構築した取組の普及啓発活動

【総　括】

仙北市では、地域の実情に応じた様々な実践を通して大きな成果が得られた。

今後も継続した災害安全の取組のほか、クマ出没について関係機関と連携して対応策を考えるなど、学校管理下における緊急時の判断について、対策を万全にしてもらいたい。

また、今回の実践事例集等を多くの人が自分事として見ていただき活用してほしい。

第２回推進委員会の様子

Ⅲ　実践委員会の開催

令和６年７月16日（火）
第１回実践委員会

学校評議員、仙北市総合防災課危機管理監、角館消防署西木分署参事兼分署長、仙北警察署桧木内駐在所員を委員とした委員会を開催し、桧木内小学校と桧木内中学校の中核教員より、本年度計画している学校安全に関わる取組について説明を行った。モデル地域の災害リスクについて確認するとともに、各委員から専門的な知見を踏まえた御意見をいただき、取組内容の改善点や学校との連携方法等について確認することができた。

令和７年１月22日（水）
第２回実践委員会

仙北市教育委員会担当指導主事よりモデル地域の取組についての説明と、拠点校の中核教員からは各学校の実践内容や教職員研修で学んだことについて報告があった。参加した委員からは、更に地域と連携・協働できる取組や今後改善が必要である取組内容等について御意見をいただき、次年度以降も継続して取り組んでいくことを確認した。

実践委員会の様子

Ⅳ　学校安全の取組　①外部専門家の活用

◆気象庁　秋田地方気象台

令和６年７月８日(月)

防災講演会(小・中学校合同ＰＴＡ)

秋田地方気象台の方を講師に招き、「災害から身を守る」と題して防災講演会を開催した。

過去の災害から得られた教訓や最近の気候変動を参考に、ハザードマップを見ながら学校の立地を踏まえた災害リスクを確認するとともに、災害への備えとして気象情報の入手方法や活用の仕方について学んだ。

◆秋田県生活環境部　自然保護課

令和６年９月12日(木)

クマ対策学習会(小・中学校合同)

秋田県自然保護課ツキノワグマ被害対策支援センターの方を講師に招き「ツキノワグマの生態と対策について」と題して学習会を行った。クマの生活サイクルや食べ物、排泄物の特徴、クマ被害防止のための３つのポイントについて詳しく学習した。「正しい知識」をもち、クマに出遭わないための対策が大切であることを確認した。

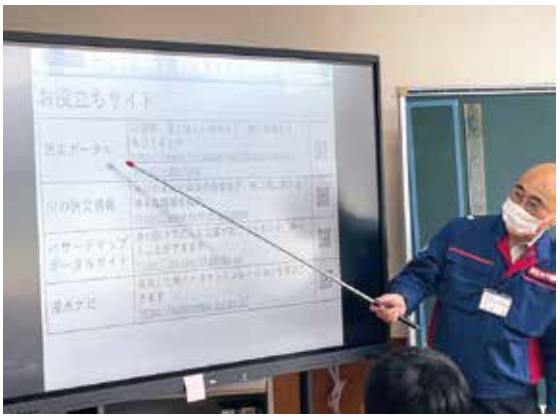
◆国土交通省　東北地方整備局　湯沢河川国道事務所

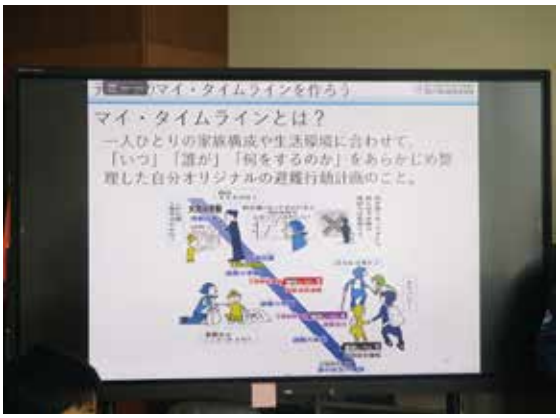
令和６年９月13日(金)

防災学習(小学校５・6年生)

国土交通省の方を講師に招き、災害対策への取組や地域で発生する可能性のある災害について学ぶとともに、学区内のハザードマップを見ながら居住地や通学路の災害リスクを確認した。

また、「マイ・タイムライン」の作成を通して、一人一人の家族構成や生活環境に合わせた避難行動や災害時の「備え」について学んだ。





◆秋田県総務部　総合防災課

令和６年10月１日(火)

防災学習「なまずの学校」(小学校１～４年生)

秋田県総合防災課の方を講師に招き、防災学習「なまずの学校」に取り組んだ。地震などの災害時に発生する様々なトラブルの対処法について、「なまずカード（アイテムカード)」を使って考え得点を競うなど、楽しみながら災害への備えについて学んだ。

令和６年５月27日(月)

避難訓練【地震・地震体験車】(小学校)

５月の県民防災の日に合わせて、避難訓練の事前学習として、「自助」「公助」「共助」について確認し、災害の恐ろしさや命の尊さ、自分の身を守る方法について学んだ。

また、地震を想定した避難訓練では、避難経路を確認するとともに、角館消防署西木分署の協力を得て、地震体験車で大地震の揺れを体験した。

地震を想定した避難訓練

地震体験車による疑似体験

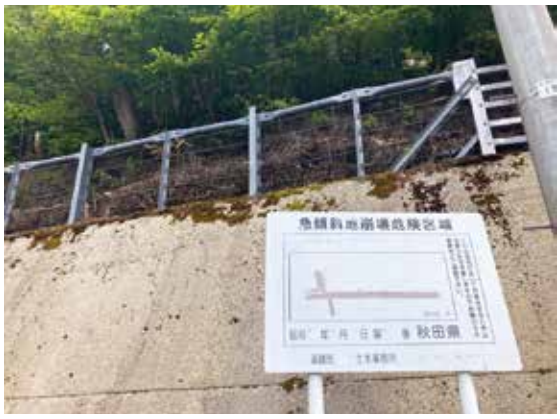
令和６年６月５日(水)

避難訓練【地震・土砂災害】(中学校)
引渡し訓練(子ども園、小・中学校同時)

地震によって土砂崩れが発生し、土石流の危険性が高まったことを想定して避難訓練を行った。中学校の東側から正面玄関にかけては、土砂災害警戒区域に立地であるため、危険箇所を避け、西側の体育館横から小学校側へ避難する経路の確認を行った。

また、引渡し訓練を実施し、保護者と手順等を確認した。

地震・土砂災害を想定した避難訓練



引渡し方法と手順を確認しながらの引渡し訓練

令和６年９月26日（木）

避難訓練【クマ出没：予告無し訓練】（小学校）

外部専門家を活用したクマ対策学習会で学んだ対応方法を生かして、学校敷地内にクマが出没したことを想定した予告無し避難訓練を実施した。

児童は緊張感をもって避難することができた。訓練を通して「教職員間の伝達方法」や「児童の避難の仕方」など、新たな課題を発見することができた。

グラウンドにクマが出没したことを想定し校舎へ避難

令和６月11月５日(火)

避難訓練【緊急地震速報】(小学校)

特別教室や体育館等にいる時に地震が発生した場合を想定し、緊急地震速報を活用した対応訓練を実施した。

児童は教室以外の活動場所での避難行動について、理解を深めることができた。

令和６月11月11日(月)

避難訓練【複合訓練】(小・中学校合同)
地震：緊急地震速報
火災：けが人発生と担架による搬出、煙道体験・消火体験

防災教育を学習したことを基に、実際の災害を想定した複合訓練を実施した。

緊急地震速報や停電、余震の対応、けが人の搬出訓練を行うとともに、角館消防署西木分署と連携し、担架の使用方法の確認や煙道体験、消火体験など災害発生時の対応について学んだ。

令和６月６月25日（火）～ 26日（水）

宿泊体験学習
【田沢湖カヌー教室】（小学校５～６年生）

田沢湖スポーツセンターで宿泊体験を行った。田沢湖ではカヌー体験を通して、水辺の活動時における安全対策の重要性について学習した。

児童全員が３年生から継続して着衣水泳を経験してきたことで、水に対する恐怖心を抱くことなく、安全に活動することができた。

また、夜はテントを設営してテント泊や飯盒炊飯を行い、災害発生時の避難所での生活について考えるきっかけとなった。

令和６月８月28日（水）

桧木内川探検【安全対策】（中学校）

地域住民の生活の一部となっている桧木内川を探検した。流れの速さを実際に体験することで、自然災害に対する危機意識を高めることができた。実施前に安全教育で学習した、クマ出没時の対応や秋田県河川砂防情報システムを活用した雨量データ等を活用して、遊泳エリアにおける安全確認を教職員と生徒で行った。

また、仙北市はドローン特区であることから、各小・中学校にドローンが１台ずつ配置されている。生徒の活動状況や川周辺の野生鳥獣の確認など、安全対策にドローンを有効活用した。

令和６月８月28日（水）

桧木内川探検（中学校）

地域の方を「川探検の先生」として招き、水辺の安全な活動について、お手本を見せてもらいながら体験した。

また、他県で発生した水の淀みによる水質悪化や健康被害の情報を収集するなど、水に関する安全について幅広く学習した。

生徒は川探検を通して、自然環境の美しさと危険は表裏一体であることを改めて学ぶことができた。

令和６月９月４日(水)

着衣水泳(小学校３～６年生)

水辺で予期せぬ事態が発生した場合でも、落ちついて行動できるように着衣水泳を実施した。仰向けの姿勢で呼吸を確保し、体の力を抜いて浮きながら、ペットボトルやビニール袋を浮き輪にして助けを待つ練習を行った。

令和６月９月19日(木)

救急救命講習（中学校）

角館消防署西木分署の方を招き、一次救命措置（心肺蘇生法・AEDの使用方法）や食べ物を喉に詰まらせた場合の異物除去の方法について学習した。

８月に実施した川探検と関連付けて実施したことにより、人命救助の重要性について、より深く考える機会となった。

令和６年10月６日（日）

学習発表会【防災劇】（小学校３～４年生）

防災劇「Ｂｏｕｓａｉ～守るぞ！一つの命」と題し、これまで学習してきた内容について発表した。

「災害が発生した時の命を守る行動」や「防災としての備え」について、保護者や地域の方と情報共有することができた。

学習発表会【防災コーナーの設置】（小学校）

児童がさまざまな防災学習で学んだ避難方法や災害時の備えについて、まとめたものを掲示した。

また、仙北市総合防災課と連携して防災コーナーを設け、普段は目にすることのない避難所開設時の簡易トイレやファミリーテント、非常食等を展示したことで、災害への備えについて各家庭で考えるきっかけとなった。

令和６年11月26日（火）

中学生防火防災弁論大会（中学校）

西明寺中学校を会場に秋田県消防協会大仙仙北美郷支部主催による中学生防火防災弁論大会が開催され、各学校の代表生徒が、防火防災についての自分の考えや提言を述べた。

桧木内中学校の代表生徒は「命を守る『備え』」について、令和４年度の豪雨体験をきっかけに、家庭で非常用持ち出しリュックを準備するようになったことや、避難所での生活訓練の必要性などを発表し優秀賞を受賞した。

各校代表者による発表

令和６年５月16日(木)

交通安全教室(小学校)

仙北警察署と連携し、発達の段階に応じた交通安全教室を実施した。
安全な横断歩道の渡り方や自転車の乗車ルール等を学んだ。

あいさつ運動(小・中学校)

全国交通安全運動週間等に合わせて年に数回、角館消防署西木分署や地域の消防団など地域の方々と交通安全の呼び掛けを実施した。

令和６年４月26日（金）、７月２日（火）

町探検（小学校　低学年）

４月は学校周辺を歩きながら危険箇所の確認や横断歩道の渡り方の確認を行った。７月には地域のボランティアと連携し、地域の安全を守る消防署や駐在所、日常生活で関わりの深い公民館や郵便局などの公共施設を訪問し、見学やインタビューを行った。

令和６年４月10日（水）～ 12日（金） ／９月25日（水）～ 27日（金）

交通安全街頭指導（中学校）

国道105号線沿いや学校前で交通安全街頭指導を実施した。交通手段に合わせ、歩行者には「反射材の着用」、自動車の運転手には「ライトの早めの点灯」、自転車利用者には「乗車時のヘルメット着用」について、地域住民と協力しながら呼び掛けを行った。

Ⅴ　中核教員の資質向上

最新の情報や実践的な知識が習得できる研修会に参加し、学校安全の充実を図るための資質や能力を高めた。

１．令和６年度学校安全指導者養成研修（オンライン）

◇期　日：令和６年７月３日（水）から５日（金）
◇主　催：独立行政法人教職員支援機構
◇共　催：文部科学省

学校安全の３領域に関して必要な知識を習得するとともに、研修会等において、具体的な実践例を紹介しながら指導助言等を行うことができる中核教員としての資質・能力を高めた。

２．令和６年度災害安全指導者研修会

◇期　日：令和６年９月25日（水）
◇主　催：文部科学省・秋田県教育委員会

・文部科学省総合教育政策局男女共同参画共生社会学習・安全課
　安全教育調査官　木下　史子　氏
　　演題「『生きる力』をはぐくむ学校安全の推進」
　　～「社会に開かれた教育課程」と防災教育～
・防災士　斉藤　亜希　氏
　　演題「避難所運営の第一歩～発災後の初期対応を体感する～」
・地域連携安全・安心推進事業実践発表　令和５年度拠点校
　　能代市立浅内小学校　　教諭　嶋田　康弘　氏
　　能代市立能代南中学校　教諭　小山恵理子　氏
・学校安全計画と危機管理マニュアルの見直しについて
　　秋田県教育庁保健体育課

文部科学省　木下　史子　氏

防災士　斉藤　亜希　氏

浅内小学校　嶋田　康弘　氏

能代南中学校　小山恵理子　氏

３．令和６年度学校安全指導者研修会

◇期　日：令和６年11月14日(木)～15日(金)
◇会　場：岩手県釜石市、大槌町、山田町、陸前高田市
◇主　催：文部科学省

釜石市では「いのちをつなぐ未来館」や「追悼施設」の見学と併せて、語り部による東日本大震災についての講話を聴講した。鵜住居地区では、過去の度重なる災害を語り継ぎ、教訓を基に取り組んできた防災教育が、東日本大震災で発生した津波から命を守る行動につながった。参加プログラムでは、釜石東中学校の生徒が実際に避難した経路を歩く「津波避難路追体験」を行い、災害を想定した訓練の実施や学校の立地条件等を把握しておくことの大切さを再確認した。

○釜石市での視察・講話（いのちをつなぐ未来館）

・「いのちをつなぐ未来館」施設＆追悼施設見学（語り部講話）

・「津波避難路追体験」旧釜石東中学校跡地より避難した経路を実際に歩いた。

大槌町では、大槌学園と大槌高校の防災教育・復興教育について紹介があった。
大槌高校からは、東日本大震災の際に、不自由な避難所生活を少しでも改善しようとボランティア活動に携わった高校生の想いを継承するため、2013年度に発足した「復興研究会」や、今年度から「地域探究科」として開始した震災学習などの活動報告があり、次世代へ繋いでいこうとする活動の重要性を再認識した。

ナイトプログラム

○「大槌町での学校再開」　岩手県立図書館　館長　森本　晋也　氏
○「大槌町における学校再開と心のケア」
　大槌町スクールソーシャルワーカー　南　景元（ナム　キョンウォン）氏

陸前高田市では、施設（東日本大震災津波伝承館、旧気仙沼中学校跡地等）を視察し、避難した教職員の講話を通して、津波の破壊力の大きさを知ると共に、学校現場における津波襲来時の教職員の対応について学んだ。

グループ協議では、「学校安全の推進」をテーマに、参加者それぞれの取組や課題、今後の方向性等について情報交換を行った。

安全教育を進めていくに当たっては、災害を自分事として捉えることができるよう、各取組において災害想定を明確に設定することの重要性を確認できた。

各県担当者との協議を通して、今後の研修会等において、具体的な実践例を紹介しながら指導助言等を行うことができる中核教員としての資質・能力を高めることができた。

４．令和６年度全国成果発表会（オンライン）

◇期日：令和７年２月13日（木）
◇主催：文部科学省
◇基調講演
　石川県穴水町立穴水中学校　校長　廣澤　孝俊　氏
　演題「災害時の教育の確保と復旧・復興～能登半島地震の事実から考える～」
◇実践発表
　岐阜県教育委員会
　岡山県教育委員会
　三重県教育委員会

５．全国学校安全教育研究大会

◇期　日：令和７年２月14日（金）
◇会　場：東京都北区立堀船小学校
◇主　催：全国学校安全教育研究会・東京都学校安全教育研究会
◇後　援：文部科学省　他
◇大会主題
「自他の生命を尊重し、安全のための行動ができる幼児・児童・生徒の育成
　－危険を予測し、自ら回避できる能力を育成するために－」

６．地域連携安全・安心推進事業に係る中核教員研修

◇期　日：令和６年８月21日(水)
◇会　場：仙北市立桧木内小学校
◇参加者：拠点校中核教員
　　仙北市総合防災課危機管理監
　　仙北市教育委員会指導主事
　　秋田県教育委員会指導主事
◇研修内容
　・学校安全計画及び危機管理マニュアルの見直しについて
　・拠点校における小・中学校合同学校安全点検

令和６年度

地域連携安全・安心推進事業
実践報告

仙北市立桧木内小学校　教諭　伊藤　和恵
仙北市立桧木内中学校　教諭　門脇　昭成

紙風船上げ

カンデッコ上げ

◇桧木内地区について

※◯が桧木内中学校の位置

◇実践事項①

- 交通安全街頭指導（中学校）　４月
- 交通安全教室（小学校）　５月
- 避難訓練【地震】、地震車体験（小学校）　５月
- 引き渡し訓練（小学校・中学校）　６月
- 内陸線駅舎清掃（中学校）　６月
- 学校安全指導者養成研修（中核教員）　７月
- 防災講習会【天気】（小学校・中学校）　７月
- 第１回実践委員会　７月
- 旭山神社清掃（中学校）　８月
- 中核教員研修（小学校・中学校）　８月
- 川探検（中学校）　８月
- 着衣水泳（小学校）　９月

◇実践事項②

- クマ対策学習（小学校・中学校）　９月
- 登下校安全確認【クマ対策】（小学校・中学校）　随時
- 防災学習【タイムライン】（小学校）　９月
- 救急救命講座（中学校）　９月
- 避難訓練【クマ】（小学校）　９月
- 防災学習【なまずの学校】（小学校）　１０月
- 学習発表会【防災劇、防災グッズ展示】（小学校）　１０月
- 避難訓練【緊急地震速報】（小学校・中学校）　１１月
- 緊急連絡手段確認研修【教員対象】（小学校）　１１月
- 避難訓練【火災】煙道体験　消火体験（小学校・中学校）　１１月
- 薬物乱用教室（中学校）　１１月
- ＡＥＤ講習【教員対象】　１月

◇桧木内小学校の取組

着衣水泳　９月　４日（水）

【３・4年生】

あわてず、できるだけ長く
浮いて、助けを待つ

【５・６年生】

◇桧木内小学校の取組

防災学習【５・６年生】 ９月１３日（金）
国土交通省　「マイタイムライン」

備えの必要性は一人一人違うからこそ、
身近な人と共通認識を図ることが大切

◇桧木内小学校の取組

防災学習【１～4年生】　１０月　１日（火）
秋田県総合防災課「なまずの学校」

災害を想定して、自分の持ち物からどんなものだったら
助けられるかを考えました

◇桧木内小学校の取組

防災学習【１～4年生】　１０月　１日（火）
秋田県総合防災課「なまずの学校」

いろいろな物の使い道や危険なことから身を守るための事を学べました。友達やおうちの人と、なまずの学校をやってみたいです。

非常用バックを準備していないので玄関に置いておいて、それをもって逃げるようにしたです。自分の持っている物で、他の人を助ける方法も分かったので、助けられる人になりたい。

◇桧木内小学校の取組

学習発表会「防災劇」【３・４年生】１０月　６日（日）

大雨・地震によって起こりうる災害や備えについて
グループ探究学習　→　地域へ伝える防災劇へ

◇桧木内中学校の取組

地域清掃【駅舎】　６月２１日（金）・１１月　６日（水）
【神社】　８月　１日（木）

◇桧木内中学校の取組

救急救命講座　　９月１９日（木）

◇桧木内中学校の取組

救急救命講座　　９月１９日（木）　～ 生徒からの感想 ～

「ふさわしいやり方だけでなく，不適切なやり方についてもその理由を分かりやすく説明してもらい，勉強になりました」

「実際に倒れている人や苦しんでいる人がいたら，自分のできることを冷静に素早く行うことが救命に必要な考え方だと学びました」

「ＡＥＤを使えるかどうか不安だったけれど，音声の指示通りにやると上手くできたので，焦らずに行動することが大事だと思いました」

◇桧木内中学校の取組

川探検　　８月２８日（水）

◇小・中共通の取組

防災講演会　　７月　８日（月）
気象庁　秋田地方気象台「災害から身を守る」

災害は「まさか」ではなく「いつか」起きるものとして認識せよ！

◇小・中共通の取組

クマ対策学習　　９月１２日（木）
秋田県自然保護課「ツキノワグマの生態と対策について

クマはすぐ襲ってくるわけではない、
落ち着いた行動を

クマは、人のところに行かないようにしていることが分かった。首や頭を守るなど、何をすれば安全なのか考えることができた。

◇小・中共通の取組

避難訓練（クマ出没を想定）9月26日

その場、その時の状況でどのように避難するか、
自分で判断できる人に

◇小・中共通の取組

事前学習から避難訓練実施（地震）

◇小・中共通の取組

事前学習から避難訓練実施（地震）

【事前学習振り返り】
○あ・お・は・し・もを意識してあわてず、冷静に判断して避難
○自助・公助・共助を思い出して、自分の周りの人が助かるように行動

【避難訓練後の振り返り】
○避難経路を自分たちで覚えたり、異変に気付けるようになりたい
○自分の命を守るためにしっかりと避難を

◇小・中共通の取組

地震体験車　５月２７日
角館消防署　西木分署

「発災時、子どもたちの個性や特性が表面化する」ことを念頭において

◇小・中共通の取組

避難訓練（桧木内中学校での実践）①

◇小・中共通の取組

避難訓練（桧木内中学校での実践）②

「生徒への事前予告無し」
「緊急地震速報音
・地震音を流す」
「校内放送が使用不可」
「余震の発生」
「発煙筒による煙の再現」
「避難経路の適切な判断」
「けが人の発生と
担架による救助」

◇小・中共通の取組

避難訓練（桧木内中学校での実践）②　～ 生徒からの感想 ～

「いきなり緊急地震速報音が鳴ってびっくりしたけど『おはしも』を意識して冷静に避難できました」

「余震が来たので少し焦りましたが，実際に余震はあり得ることなので，そのような可能性を考えておくことが大切だと感じました」

「トイレ付近で足をけがした先生がいましたが，避難を誘導していた先生が列から離れ，後から担架で運んできた姿を見て，臨機応変に対応しているのがすごかったです」

◇小・中共通の取組

避難訓練　～ 来年度以降取り組みたいこと ～

☆今年度：職員の役割を予め明確にして実施

↓

来年度：役割を変えて行うことも必要

☆想定力や判断力を培う事前学習の充実

↓

☆職員：その場で判断・分担して行動できる
生徒：大人がいなくても自ら判断して行動できる

◇小・中共通の取組

引渡し訓練

【桧木内小にて園児・児童が避難】

◇研修会への参加

学校安全指導者研修会　１１月１４日～１５日
（岩手県釜石市、大槌町、山田町、陸前高田市）

「釜石の奇跡ではなく、釜石で起きた出来事」
「奇跡ではないよ。僕たちは学校で学んだことを実行しただけ。」

◇研修会への参加

総合的な学習の時間（桧木内小３・4年生）「防災食を食べる」

自分の命、みんなの命を守るために安全な場所へ助け合いながら逃げる

今温かいご飯が食べられるのは、当たり前ではなくなる

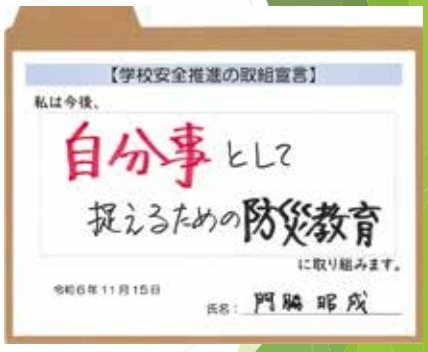
◇成果（○）と課題（△）

○自分事としてとらえる防災意識へ変化
○自分と支えてくれる地域の人の命を守る
　郷土への思い
○教職員間の学校安全に対する共通認識

△学校事情に合った学校安全計画の見直し
△実効性のある内容へアップデート

◇成果（○）と課題（△）

○最悪を想定して
　最善を尽くす
△より現実的な
　避難訓練
△想定力・判断力を
　培う事前学習



令和６年度文部科学省委託
学校安全総合支援事業
「地域連携安全・安心推進事業」実践事例集

令和７年２月発行　秋田県教育委員会

〒010-8580 秋田市山王三丁目１番１号
電話 018-860-5204　FAX 018-860-5207

この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます